

## 復刻モデルとする旧型客車の概要

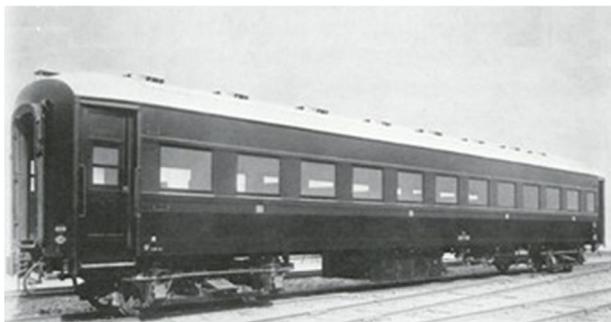
### (1) マイテ49

1938年(昭和13年)に東京～下関間の特急「富士」に使用するために製造された展望車。戦後は連合軍の接収・返還を経て、特急「はと」「つばめ」の展望車として活躍。マイテ49-2は現役引退後、交通科学館に展示されていたが、1987年(昭和62年)に本線復帰、現在はJR西日本網干総合車両所宮原支所に配置。展望デッキ、展望室、一等客室と給仕室、便所、化粧室、車掌室を有し、戦前(昭和10年代)の丸屋根構造が外観上の特徴。



### (2) オハ35

1939年(昭和14年)から製造され、戦前・戦後を通して全国で活躍した客車。当時の技術進歩により、大きなガラスを使用した側窓や、日除けは従来の鎧戸に代わり巻き上げ式カーテンが採用された。戦前に製造されたタイプは丸屋根構造が外観上の特徴。



### 3) オハ31

1927年(昭和2年)から製造され、戦前を代表する客車。もともと客車は木製車体だったが、大正時代の終わり頃から安全性向上のために鋼製客車の研究が進められ、オハ31形は本格的な鋼製客車として量産された。当時は大きなガラスを製造する技術がまだ進歩しておらず狭い側窓が並ぶ窓構成や、リベットによる接合、あかりとりのための二重屋根構造(ダブルルーフ)が外観上の特徴。

